

事務事業チェックシート

事務事業No

事業名

[事業基本情報]

11297

旧中筋家住宅公開事業

[長期総合計画]

分野別目標	2	住みたいと選ばれる魅力があふれるまち
政策	5	郷土に誇りと愛着を育む文化・スポーツの振興と生涯学習の推進
施策	3	文化財の保護・活用
取組方針	2	文化財の活用

事業区分(1)	事業経費	○	管理経費	
	その他			
事業区分(2)	自治事務	○	法定受託事務	
	その他			
会計・ 予算区分	会計	一般会計		
	款	総務費		
	項	文化スポーツ費		
	目	文化財保護費		
	大事業	文化財保護事業		
中事業	旧中筋家住宅公開事業			

事業種別	継続		関連個別計画			
事業年度	無し	～	無し	担当課・担当課長・Tel	文化振興課	洲崎 敬一郎 435-1194
事業実施の根拠法令	文化財保護法		関連課			

1 事業内容

事業目的	(「誰・何」をどういう状態にするための事業か)		全体事業概要			
	国指定文化財旧中筋家住宅の維持管理及び運営を行う。		国指定文化財旧中筋家住宅の維持管理及び運営を行う。			
事業内容		平成30年度	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度
		旧中筋家住宅の維持管理及び運営 観覧者数 11,037人	国指定文化財旧中筋家住宅の維持管理及び運営を行う。 観覧者数 1,277人	国指定文化財旧中筋家住宅の維持管理及び運営を行う。 観覧者数 904人	国指定文化財旧中筋家住宅の維持管理及び運営を行う。	国指定文化財旧中筋家住宅の維持管理及び運営を行う。

2 事業コスト

事業費等(千円)	平成30年度		平成31年度		令和02年度		令和03年度		令和04年度		
	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	計画	決算	
事業費	3,768	4,882	2,982	3,818	3,364	3,335	3,071	0	3,071	0	
伸び率(%)	△38.6%	△18%	△20.9%	△21.8%	12.8%	△12.7%	△8.7%	△100%	0%	0%	
人件費	正規職員	3,117	4,956	5,638	3,786	4,141	2,071	2,071	0	2,071	
	正規職員以外	8,486	6,606	5,867	6,538	7,087	6,241	5,509	0	5,509	
	小計	11,603	11,562	11,505	10,324	11,228	8,312	7,580	0	7,580	
国庫支出金	0	0	0	0	0	0	435	0	435	0	
県支出金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
市債	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
その他	96	832	240	74	120	50	0	0	0	0	
一般財源(税等)	3,672	4,050	2,742	3,744	3,244	3,285	2,636	0	2,636	0	
所要人数(人)	正規職員	0.39	0.62	0.70	0.47	0.52	0.26	0.26	0.00	0.26	0.00
	正規職員以外	3.42	3.42	2.77	3.12	3.34	3.05	2.82	0.00	2.82	0.00
主な予算内訳	土地借上料 768千円 管理委託料 673千円										

3 目標及び実績

活動指標	指標名	単位	平成30年度	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度
			目標値	実績値	達成度(%)	目標値	実績値
開場日数	日	目標値	90	90	90	90	90
		実績値	254	98	94		
		達成度(%)	282%	108%	96%	%	%
自主事業開催数	回	目標値	10	10	10	10	10
		実績値	14	14	8		
		達成度(%)	140%	140%	80%	%	%
文化財関連施設入館者数(旧中筋家住宅)	人	目標値	1800	2400	2400	1700	1700
		実績値	11037	1277	904		
		達成度(%)	613.2%	47.5%	34.3%	%	%
成果指標		目標値					
		実績値					
		達成度(%)					

4 事業の評価

評価基準					
[妥当性]事業のニーズはあるか		増加している	○	横ばい	減少している
[妥当性]事業手段は妥当か	○	現行の手段でよい		一部見直しが必要	見直しが必要
[妥当性]官民の役割は妥当か		市が行うべき	○	他の主体との協働も可能	市が行う必要性は薄れている
[妥当性]緊急的に取り組む必要があるか		急いで取り組む	○	中長期的に取り組む	緊急性は薄い
[有効性]更に効果が期待できるか		できる	○	あまりできない	できない
[有効性]成果目標はどの程度達成しているか		達成している (90%以上)		おおむね達成 (70~90%未満)	○ 達成していない (70%未満)
[有効性]上位施策への貢献度		重要かつ高い貢献度がある	○	一定の貢献度がある	貢献度は低い
[効率性]事業費を抑制できるか	○	できない		制約はあるが可能性はある	できる
[効率性]受益者負担の見直し	○	適正		負担は求められない	見直しが必要

5 今後の方向性 (担当課評価)

事業内容の方向性	充実				
	現状維持			○	
	縮小				
	廃止				
		ゼロ	縮小	現状維持	拡大
コスト投入の方向性					

担当課評価の根拠	平成22年度の公開以来、多種多様な自主事業を行うことによって、観覧者の定着化をはかる努力を行っている。令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響があったが、入館者数は3割~4割減に踏みとどまった。
見直し・改善内容	より広範囲な広報活動（ホームページ、インターネットの活用を含めて）により、周知を図り、一過性でない観覧者数の増加を目指す。また学校関係や地元自治会等との連携を強め、様々な利用方法を探る。